

わが

さがかけて緑の里から世界へ 「結い」と「土徳」にはぐくまれた 一流の田舎を目指すまちづくり

土徳にはぐくまれたまち

南砺市は、富山県の西南端に位置し、市域の8割を森林が占めています。岐阜県境に連なる山々を流す急流河川が北流するなど、豊かな自然に恵まれており、水田地帯の中に家屋が点在する



世界遺産・五箇山合掌造り集落

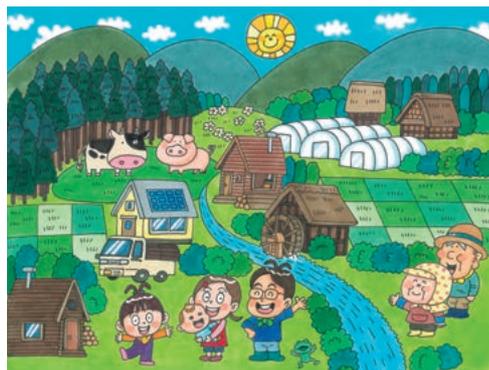
「散居村」の美しい風景が広がる平野部から、世界遺産「五箇山合掌造り集落」を有する山間部まで、懐かしく美しい日本の原風景が息づくまちです。平成16年、8町村が合併して誕生した本市は、獅子舞や祭り、民謡といった伝統文化や、演劇やワールドミュージックなど世界に向けて発信する新たな芸術文化、自然の恵みに丁寧な手間と時間を掛けることではぐくまれてきた食文化、井波彫刻・城端絹・五箇山和紙をはじめ今に伝える伝統工芸の技などそれぞれの地域に豊かな個性を持っています。どの地域にも、根底には「土徳」といわれる感謝の心を大切にしている精神文化に裏打ちされた温かな人情があり、彩り豊かな地域資源が生きて暮らしているの中に溶け込んでいます。



ほっと あつと なんと
南砺市ブランドマーク
[NANTOKUN]

自立循環型の 地域社会構築を目指す 「エコビレッジ構想」

人口減少や少子高齢化の進行、地球規模での気候変動などにより、人と人、人と自然の関係を改めて問い直し、未来へとつながる新しい暮らし方への転換が求められている中で、本市では「南砺市エコビレッジ構想」を策定し、「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」といった4分野が相互に連携することで地域の循環を生み出し、持続可能な自立した地域の実現を目指しています。本構想では、木質バイオマスエネルギーの活用や循環型農業の推進、農福連携、伝統産業の再生といった事業を展開しており、今後



小さな循環による地域デザイン「エコビレッジ構想」

も、エコ住宅や住民が行うまちづくりの財源となるファンドの創設などにも取り組みながら、100年後も安心して暮らし続けることができる地域をつくるため、南砺市発の新しい暮らし方を提案していきます。

「地域包括ケアシステム」 の構築

本市では、長年にわたり市政を支えてきた高齢者が、可能な限り住み慣れた地域で尊厳を持って暮らし続けることができるよう、そして支える家族の生活も犠牲にし



地域の人と一緒にイベントを盛り上げる「南砺市応援市民」

ないよう、という価値観の下、地域の自主性、主体性や特性に応じた在宅介護サービスの充実と医療・介護をより密接に連携させることで、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供できる南砺市型の「地域包括ケアシステム」を進めています。平成28年には、ワンストップの窓口となる地域包括ケアセンターを設け、病院などと連携して24時間対応の訪問看護体制を整えるなど、きめ細やかな支援を行っています。近年は在宅看取りも増加傾向にあり、選択肢を広げることで、最期まで自分らしく暮らせるまちづくりを目指しています。

地域の課題解決や活性化を目指す 「南砺市応援市民制度」

市外に居住する本市出身者や、仕事などで一定期間本市に居住されていた方、また、旅行などで訪れた際に本市のファンになっていただいた方、ふるさと納税などで支援していただいた方など、本市とかわりがある方を応援団ととらえ、これらの方を地域課題の解決や地域の活性化へ生かす取り組みである「応援市民制度」を設けています。「応援市民」となっていた方の方は、本市で開催されるイベント・地域行事への参加・協力や、ふるさと寄附金など金銭面での支援、情報を広く発信するなどの「応援活動」に取り組みながら、本市と継続的にかかわって、市民とともに本市を支え、盛り上げる大切なパートナーです。現在、約450名の方に登録をいただいております、今後もSNSなどで広く呼び掛けてまいります。

本市では、人口減少への対応を最重要課題として位置づけています。人口問題は一つの施策だけではなく、市民や

民間企業、行政などすべての思いや活動、施策が折り重なって、「総働」による総合的な視点でまちづくりを進めることが不可欠であると考えています。本市に「住んでみたい」「住み続けたい」と多くの方に感じていただけるよう、人・

自然・食・歴史・伝統・文化といった豊かな資源を連携させて、地域の価値を高め、南砺の暮らしの良さを生かした新しいライフスタイルを広く提案、発信し、都市化しない一流の田舎を目指したまちづくりを今後も推進していきます。

プロフィール

- ◆ 面積 668・64km²
- ◆ 人口 5万1669人
- ◆ 世帯数 1万7761世帯

〔将来都市像〕さきがけて 緑の里から 世界へ

〔まちの特徴〕豊かな自然に抱かれた山間部から、散居村が広がる平野部まで、心安らぐ日本の原風景が広がり、純朴で香り高い歴史と文化がはぐくまれたまち

〔市町村合併〕平成16年11月1日、城端町、平村、上平村、利賀村、井波町、井口村、福野町、福光町が対等合併

〔特産品〕干柿、里芋、そば、赤かぶ、チューリップ球根、米菓、井波彫刻、五箇山和紙、木製バット、城端絹



南砺市長
田中幹夫



〔観光〕世界遺産「五箇山合掌造り集落」、井波別院瑞泉寺と門前の古い町並み「八日町通り」、板画家棟方志功の住居「愛染苑」、明治期の学校建築「巖浄園」

〔イベント〕城端曳山祭（ユネスコ無形文化遺産）、福野夜高祭、劇団SCOTサマー・シーズン、いなみ国際木彫刻キャンプ、福光ねつおくり七夕祭り、スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド、五箇山麦屋まつり、こきりこ祭り、南砺菊まつり、南砺利賀そば祭り、南砺いのくち椿まつり、TOGA天空トレイルラン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

アキシマクジラで 「元気都市あきしま」を発信



昭島市公式キャラクター
アッキー&アイラン

はじめに

昭島市は東京都のほぼ中央に位置し、昭和29年5月1日に東京都で7番目の市として誕生しました。豊かな湧水と緑に恵まれたまちで、東京都で唯一、深層地下水100%のおいしい水道水を飲むことができます。また、都心へ約1時間という通勤圏内にあり、同程度の時間で奥多摩の大自然にも触れることができ、商業施設や文



アキシマクジラの発掘現場

化施設へのアクセスにも恵まれ、暮らしやすい良好な環境にあります。

今回は、今から半世紀以上前に見つかったクジラの化石をテーマに本市の取り組みを紹介したいと思います。

巨大化石発見

今から約57年前の昭和36年8月に、夏休みを利用して市域を流れる多摩川の河川敷で化石採取をしていた市内小学校教諭により巨大化石が発見されました。当時、この辺りの河原は建築資材として砂利が大量に採掘されたことから、約200万年前の地層（下部更新統上総層群小宮層）が露出し、貝や魚などの化石が多く見つかっていました。巨大な化石を前に、一体何の化石だろうと思ひ悩んだ発

見者が、市教育委員会を通じて国立科学博物館の尾崎博士（故人）に現場確認を依頼したところ、クジラの化石であることが分かりました。多くの見学者が見守る中、連日発掘が続けられ、10mを超えるヒゲクジラの仲間の化石であることなど、全容が明らかになりました。また、ほぼ全骨格が揃ったクジラの化石発見は、当時は世界的にも前例がなく新聞などで大々的に報道され、市制施行間もない昭島市の名を全国にとどろかせることになりました。

市民に愛され続ける アキシマクジラ

昭和38年に通称名として命名されたアキシマクジラが生息していた約200万年前は、本市を含む東京都の大半は海の中でした。当



「昭島市民くじら祭」でのクジラの潮吹き・パレードの様子

時比較的浅瀬だったこの場所です。息絶えたクジラが堆積物に覆われ化石となり、地殻変動や河川水による流出などの影響を受けることがなかったという奇跡を積み重ね、悠久の時を経て発見されました。

本市を歩いてみると、駅の自由通路のステンドグラスをはじめ、案内看板、マンホールのふた、街路灯など、クジラが描かれたものやオブジェなどを数多く目にするこ

とができます。お菓子も趣向を凝らしたものが作られ、郵便局の風景印から小学生の社会科の副読本に至るまでクジラが登場します。

毎年8月上旬には2日間にわたって「昭島市民くじら祭」が開催され大勢の人でにぎわいます。今年で46回目の開催となり、10mを超えるアキシマクジラのバルーンを先頭に、多くの団体が参加して行われるパレードや、目の前で打ち上げられる「夢花火」、クジラの潮吹きは、とても見応えがあります。

このようにアキシマクジラは、半世紀にわたり市民の皆さまに愛され続けてきました。

新種認定・学名付与で まちおこし

本年1月1日、本市にとって歴史的快挙の年明けとなりました。



骨格レプリカのイメージ

平成24年よりアキシマクジラを管理・研究していただいていた群馬県立自然史博物館の研究者による論文が、日本古生物学会の学会誌に掲載されました。「これまで世界で発見されたことのないクジラの新種」として、学名も発見地である昭島にちなみ「エスクリクティウスアキシマエンシス」と命名されました。

これを受けて、本年度「学名付与記念事業」を展開していきます。一例を挙げますと、観光まちづくり協会と連携し、本市のイベントに特設PRブースを設置したり、記念グッズなどの配布や講演会を開催したりするなど、アキシマクジラを市内外に発信していきます。

また、2020年3月オープン予定の「昭島市教育福祉総合センター（※注1）」のエントランスには、アキシマクジラの骨格レプリカ（原寸大13・5m）の吊り込み展示を行い、夜間はライトアップにより幻想的な空間がお目見えします。

今後も、アキシマクジラを市の宝として大切に守り継承していくとともに、市民や企業の皆さまを

はじめ、商工会、観光まちづくり協会など関係機関と連携し、全国にアキシマクジラと昭島の魅力を発信していきます。そして、「元氣都市あきしま」の確かな実現に向け、「住んでみたい、住み続けたい。訪れてみたい。ここで生業をしてみたい、生業をし続けたい」、さらには「昭島大好き!」と思っ

プロフィール

- ◆ 面積 17・34km²
- ◆ 人口 11万3245人
- ◆ 世帯数 5万3519世帯

〔将来都市像〕ともにつくる 未来になく「元氣都市あきしま」〜人も元氣 まちも元氣 緑も元氣

〔まちの特徴〕東京都のほぼ中央に位置し、本市の南には多摩川が、北には玉川上水が流れ、豊かな湧水と緑に恵まれたまち。また、東京都で唯一、深層地下水100%のおいしい水道水を供給しており、市民の皆さまをはじめ昭島を訪れた方々からも「とてもおいしい水道水」と評判



昭島市長
白井伸介



〔特産品〕 拝島ねぎ、多摩川梨、くじらのお菓子

〔観光〕 昭和記念公園、拝島大師のだるま市、昭島の史跡めぐり（ASFコース）

〔イベント〕 環境緑花フェスティバル（4月）、郷土芸能まつり（5月）、市民くじら祭（8月）、産業まつり、昭島ブランド・フードグランプリ、青少年フェスティバル（11月）、新春駅伝競走大会（1月）

ていただけるまちづくりを進めていきます。

※注1 統合により廃校となった小学校跡地に建設中の複合施設です。新築される国際交流教養文化棟には、図書館をはじめ郷土資料室やシアターなどが設置されます。既存の校舎棟には、男女共同参画センター、教育センター、子ども家庭支援センターなどが設置されます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

子育て環境・学校教育の充実、市駅周辺再整備で「豊かで誇りある枚方」の実現へ

歴史と文化の香りに
生まれ、住み心地の良い
住宅都市

枚方市は、人口約40万人の中核市で、大阪と京都のちょうど中間に位置し、それぞれ電車で約30分というアクセスの良さからベッドタウンとして発展してきました。古くから淀川の恩恵を受けて交通の要衝として栄え、江戸時代には東海道品川宿から数えて56番目の宿場町としてにぎわいました。今でも歴史と文化の香りに満ち、自然にあふれた住み心地の良い住宅都市です。また、100年以上の歴史を誇る日本最古の遊園地「ひらかたパーク」のほか、市内を縦断する京阪電鉄の主要駅である枚方市駅前に近年オープンした枚方T-SITE、樟葉駅前のくずはモー

ルなど大型商業施設も充実し、さらなるにぎわいを見せています。

70周年を機に
盛り上がった協働の機運
さらなる発展へ

本市は平成29年度、市制施行70周年の節目を迎えました。「枚方の魅力をともに高める」をテーマに市民や市民団体、事業者などあらゆる主体が担い手となり、35の記念事業、45の協賛事業が展開されました。

また、漫才師・ハイヒールリンゴさんや日本将棋連盟会長・佐藤康光さんなど、枚方ゆかりの著名人11組を「枚方PR大使」に任命し、枚方の魅力を全国へ広く発信していただいています。これら、市制施行70周年を機に盛り上がった協働の機運を一過性のものとす

ることなく、さらに発展させ、枚方の存在感を示していきたいと考えています。

子育て世代から
さらに選ばれるまちへ

少子高齢化や核家族化が進展する中、子育ての不安感や孤立感を取り除き、喜びを感じながら子育てができるよう、保護者に寄り添って、妊娠、出産から子育て期にわたる切れ目のない支援を進めています。中でも待機児童対策に関しては、いわゆる潜在的な待機児童を含めた通年での解消のため、小規模保育施設の開設や小学校の余裕教室を活用した保育室開設に向けた取り組みなど、入所枠拡大を図っているところです。

本市独自の支援策として、多子世帯の経済的負担の軽減を図るた



待機児童対策として開設された「枚方市立おおがいと小規模保育施設」

め、保育所・幼稚園などにおける第3子以降の保育料を無料化するとともに、多子世帯の子ども医療費の自己負担額の軽減を図る取り組みを本年度から大阪府内で初めて実施します。そのほか、結婚に伴い本市で新たに生活を始める夫婦への居住費用などの助成についても、本市独自の補助金額の上乗せや所得要件の緩和を行い、結婚しやすい環境づくりも推進していきます。

学校教育においては、子どもた

ちの未来への可能性を最大限に伸ばすために、これからの社会を生き抜く力をはぐくむことが必要だと考えています。子どもたち一人一人と向き合いながら、グローバル社会で主体的に行動し、未来を切り開いていく力を身につけるために、確かな学力の向上、とりわけ、英語教育のさらなる充実を図っていきます。全中学校への外国人の英語教育指導助手の配置に加え、小学校に英語専科教員を配置するとともに、日本人の英語教育指導助手の配置を拡充していきます。

また、今後、英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)が重要視されることから、これに対応した外部検



日本人の英語教育指導助手による英語授業

定試験をすべての中学校2年生を対象に実施し、授業改善や家庭学習にも活用していく予定です。

これらの取り組みを通じて、子育て世代から、さらに「選ばれるまち」を目指しています。

市駅周辺再整備で魅力あふれる中心市街地へ

枚方市駅周辺がこれからの時代に対応し、枚方のイメージを変える魅力あふれる中心市街地として、ふさわしいエリアとなるよう、公民連携による枚方市駅周辺再整備の取り組みを加速化させます。まずは、駅北側で平成33年度の供用開始を目指す、「(仮称)枚方市総合文化芸術センター」の整備を進めると同時に枚方市駅周辺再整備基本計画を策定していきます。同センターの整備を起点として、市役所庁舎を含め、連鎖的なまちづくりによる市駅周辺の活性化を図っていきたいと考えています。

人口減少社会にあっても持続的に発展し続けるまちを目指して

本格的な人口減少・少子高齢化

を迎えることになっても、私たちにいまの活力を未来につないでいく大きな責務があります。行政改革を徹底し、健全財政を維持しながら、ここに挙げた取り組みを着実に遂行することで、持続的に発展し、未来を担う子どもたちが多様な選択肢の中から目指す道を選び、将来の夢と希望に向かって進んでいくことができる「豊かで誇りある枚方」の実現を目指します。

プロフィール

- ◆ 面積 65・12 km²
- ◆ 人口 40万3950人
- ◆ 世帯数 17万8956世帯

〔将来都市像〕豊かで誇りある枚方
 〔まちの特徴〕大阪・京都の中間で交通の便が良く、自然にも恵まれた、歴史と文化の香り漂うまち

〔特産品〕くらわんか餅(銘菓)、河内素麺、エコレンゲ米



枚方市長
伏見 隆



〔観光〕ひらかたパーク、枚方「HOTEL、くずはモール、枚方宿鍵屋資料館、特別史跡百濟寺跡
 〔イベント〕枚方オクトーバーフェスト、枚方宿くらわんか五六市、枚方まつり、「新春走ろうかい」ひらかたハーフマラソン



平成33年度の供用開始を目指す「(仮称)枚方市総合文化芸術センター」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

人が元氣まちが元氣 未来をひらく活力都市

体験観光資源の豊富な
「土佐市」

土佐市は高知県のほぼ中央に位置し、奇跡の清流「仁淀川」、どこまでも広がる太平洋、緑輝く山に囲まれた、小さいけれど贅沢な自然に囲まれたまちです。

そこでは、ホエールウォッチン



石土の森 パラグライダーフライト基地から市内を望む

グ、SUP（スタンドアップパドル）、クルージング、釣りなどが楽しめます。また、仁淀川が海へと注ぐ河口はサーフィンのメッカであり、市街地からすぐの山には有名なパラグライダーフライト基地もあります。

歴史を感じられるスポットとしては、四国霊場第35番札所「清瀧寺」と第36番札所「青龍寺」があります。2つの札所をつなぐ旧遍路道「土佐遍路道青龍寺道（塚地坂）」は平成28年秋、国指定史跡に指定されました。理由は、古くから遍路道として利用されていた証拠があること、県下最大の磨崖仏などの石像物群が残っていることなどです。

土佐市の観光スポットの特徴は、見学ではなく体験を伴うということです。ネイチャーアクティビティは言うに及ばず、塚地坂を



平成28年国史跡に指定された「青龍寺道（塚地坂）」

専門ガイドと歩いたり、本市が発祥の地である改良土佐節（鯉節）の老舗工場見学をしたり、新鮮な肴と地酒を楽しんだりすれば、土佐を肌で感じていただけることと思います。

「観光」ではなく
「関係」を味わう

そのための1つのステーション

になるべく、土佐市地域おこし協力隊が地域の方々とともに、本年秋にゲストハウスをオープンする準備を進めています。ここに泊まり、地域の人々と触れ合い、身近な美食を堪能し、いろいろな体験をすることで、本市のファンになっただけの「関係人口」が増えることを期待しています。

中心になって計画を進めている協力隊の熱い思いを聞くにつれ、古くからお遍路さんにお接待をしてきた土地ならではのおもてなし文化が、ほかの地域、特に都市圏から見ればかけがえのないものなのだ、われわれの方が教えられました。地元民からすれば何でもない日常、人とかかわり方、そして地域住民の心が、何よりの宝であると改めて感じています。

津波被害から
命を守るために

高知県沖付近で発生すると予測されている南海トラフの巨大地震は、今後30年以内に70%から80%

程度（地震調査研究推進本部・平成30年1月公表）の高い確率で発生すると言われています。また、高知県が平成24年12月に発表した「南海トラフ巨大地震による震度分布・津波浸水予測」の結果、最大クラスの地震が発生した場合は、震度6弱から震度7の揺れが予測されており、最大浸水深は10m、一部地域では超えることも想定されています。本市では、その想定に基づき、宇佐、新居、用石地区に津波避難対象地域を設定し、地域の背後地にある高台に津波指定緊急避難場所46カ所の指定を行い、平成24年度から整備を進め、平成30年2月末ですべての避難場所の整備が完了しています。今後



住民参加によるHUG（ハグ）ゲームを行い、避難所運営イメージを共有

市民の生命と財産を守るために

は津波被害から命を守るために、市民一人ひとりが「津波から避難する」意識を高め、お互いに助け合い、津波が到達するまでに安全な高台の避難場所へ迅速に避難することができるよう官民一体となった避難訓練を行っていきます。

市では、住宅耐震化対策、避難路を塞ぐ恐れのあるブロック塀の改修、家具転倒防止対策、ガラス飛散防止対策、倒壊の恐れのある老朽住宅の撤去、地震発生後に予測される通電火災を防ぐための感震ブレイカーの設置などに向けて、さまざまな補助制度を設けています。特に、住宅耐震化対策については、高知県内でもトップクラスの補助制度を創設し、耐震診断は無料、耐震設計は32万4000円まで、耐震改修は152万5000円までを補助金として交付し、住民の負担を軽減する仕組みを作り、住宅耐震化を積極的に推進しています。

市民主体の防災力の向上

市では、南海トラフ地震をはじめ

めとする大規模災害時において、行政からの支援活動が各避難所に行き渡らないという事態が想定されていることから、そのような事態に備えて避難者を含めた地域住民の方が主体となって避難所の運営ができる体制を整えるための避難所運営マニュアルの作成を進めています。マニュアルは津波浸水区域外の避難所23カ所を対象に平

成28年度から5年間で作成する計画で、平成29年度末までに14カ所でマニュアルが完成しており、残り3年間ですべての避難所に運営マニュアルを作成する計画で進めてまいります。今後は市民が主体となり完成した運営マニュアルを使った避難訓練を行い、地域の防災力向上に努めていくことが必要となります。

プロフィール

◆ 面積 91・49km²

◆ 人口 2万7434人

◆ 世帯数 1万2451世帯

〔将来都市像〕人が元氣 まちが元氣
未来をひらく活力都市

〔まちの特徴〕清流「仁淀川」の河口に広がる市街地とどこまでも広がる海と空、緑の山々を擁するあたたかいまち

〔特産品〕土佐文旦、土佐節（鯉節）、土佐和紙、一本釣りうるめいわし、



土佐市長
板原啓文



生姜、花卉、メロン、鯉加工品、紙加工品
〔観光〕ホエールウォッチング、四国八十八ヶ所札所「清瀧寺」「青龍寺」、国史跡「土佐遍路道青龍寺道（塚地坂）」、釣り
〔イベント〕宇佐大鍋まつり、宇佐港まつり、土佐市大綱まつり、ふれあいフェスタ、蓮池ハスマつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。